

道

2018年8月



一九七〇年（昭和四五年）、僕が一八歳で「真備町」を離れた時、旧山陽道の両側はほとんどが田んぼだった。のどかな田園風景が広がっていた。それが、あれよあれよという間に住宅や商店、学校、病院などが建ちならぶ「街」にと化していった。いわば「右肩上がり」日本の「成長」が産みおとしたもののひとつである。その「産物」のほとんどが水に浸かり泥にまみれた。▼幸いというか、僕の家は浸水を免れた。しばらく水が出なかったし、今も電話や新聞が止まったままでインターネットなどが不自由だが、命や自宅、事業所を失った方に比べれば何ともない。彼らの苦しみの深さは僕らには量り知れない。▼今、「真備町」がマスコミに出ない日はない。まさかこんなことになるとは考えもしなかった。先日のテレビにも僕がケアマネ勤務する老人保健施設が映った。5階の建物の2階まで水が来た。被災の少し前、七月六日昼頃、僕達は「あの堤防が切れたら、ここは2階まで浸かるんだよね」などと呑気に話していたのだ。▼今回犠牲になった方の多くは高齢者や弱者、助けを呼ぶことができなかった人たちである。そして、被災者の救助で地域住民の力が大きかったことを知っている。▼足元をじっくり見つめること。地域の人と人との繋がりがこそ大事にしなければならぬと反省を込めて思う。今は「成長」の霞を追っているような時ではない。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

090-5366-1497

michi-care@outlook.jp

<https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也



遠田
棕の木